

第2回 南区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成27年12月7日(月) 午後1時30分から午後3時まで
会場	南区役所4階講堂
出席者	<p>南区自治協議会委員 出席11名 教育委員 吉村教育委員、藤田教育委員 事務局 教育総務課長補佐、地域教育推進課長、 区教育支援センター所長、 学校支援課長補佐、教職員課長補佐、白根地区公民館長</p>
議 事	<p>1 開会 2 教育委員代表挨拶 吉村教育委員 3 出席者紹介(教育委員、事務局) 4 教育委員会情報提供 教育総務課長補佐より情報提供 5 事前質問回答 学校支援課補佐より説明 6 意見交換 テーマについて 「地域と学校の連携について」～豊かな心を育むために～ 事務局説明 南区教育センター所長</p> <p>自治協委員 地域のコミ協の会長として、また、PTAとしてみたときに地域と小学校、中学校は良い関係で進んでいると思う。特に、地域教育コーディネーターの力は大きい。地域の方の協力が必要なときは、一人一人に声を掛け、断られても「また、お願いね」と言って次に向かっていくパワーは、ものすごいと思う。しかし、協力してくれる方は、よく地域で見かける方で、それほど広がっていないと思う。 コーディネーターの研修発表の中でも同じような悩みを感じ取れた。どうしたら良いのか、思いついたのは、大勢の保護者が参加する小学校の入学説明会に「子育て講演会」を行っているが、その内容の中に地域教育コーディネーターの活動紹介や親も子どもも地域の一員であることを理解してもらう内容も含めていければと思う。</p> <p>自治協委員 卒業式に、孫を育ててくれたおじいちゃんやおばあちゃんを地域教育コーディネーターが招待する形でお呼びしようと思っている。</p>

花を育てるボランティアの方のお話では、お父さんやお母さんに遠慮して出席されないようでもあることから、伝えてみたいと思っている。

自治協委員

地域と学校の交流活動については、いただいた南区各校の資料からいろいろな交流があると分かったが、「交流事業等の増加は他の教育活動とのバランスから難しい」との課題もある。交流活動を精査すれば、教育活動の充実につながるのでは。

自治協委員

地域行事である農村公園祭りや自主防災の避難訓練などに小学校や中学校が参加することで、地域と学校の連携が深められ、近所の子どもの顔も分かり、この後の声掛けもできて良いと思う。

そのほか、退職した人が学校へお手伝いに行ったときに、保護者から「あの人、孫がないよね」という声があった。ボランティアとして頑張っているのに残念に思う。子どもはいなくても地域ぐるみで学校に一生懸命協力して下さる方は大切だと思う。そういうボランティアや地域教育コーディネーターの意味を教えてくださいと誤解はなくなると思う。

もう一つ、放課後のサポートスクール(アフタースクール支援事業)について、部活の子どもたちの時間的な問題、回数は少ないと思うので増やしてほしいと思う。

教育委員会事務局

アフタースクール支援事業については、6月実施のAタイプと9月実施の2パターンを学校に選択してもらいました。その結果、6月実施を希望した学校は56校中8校でした。委員が言われた通り、部活動関係で各大会が終了する秋口の9月実施の学校が多かったのが実情です。

時間設定などを含め検討したいと思っておりますが、回数を増やすことについても検討したいと思います。

自治協委員

アフタースクール支援事業について、中学校の学校だよりには進学対策になるようなことが書かれていたと思うが、その対象は学校に任せられているのか。

教育委員会事務局

事業の趣旨は、子どもたち一人一人の学びたいというニーズを尊重し、趣旨に賛同する子どもたちをまずは受け入れることです。その中で、さらに難しい課題にチャレンジする子どももいれば、授業の復習をしたい子どももいます。支援員がそれぞれの子どものに合った教材を準備し、指導するスタンスで

行っています。特定の子どもを集めて行うことは考えていません。

自治協委員

支援員一人で、大勢の子どもたちを一斉に授業する形での指導はないのか。

教育委員会事務局

共通の内容については全体で抑え、その後支援員がその子に合わせ個別にサポートする学校もあります。初めて試行する中で、支援員の抱える課題、要望などを集約しながら、次年度に向け、学校や子どもたちの要望に合う方向を模索しているところです。

自治協委員

民生委員の研修会で、貧困対策や高校生の中退対策として「学習支援プログラム」の話があった。南区の取り組みはどうなっているのか。

教育委員会事務局

先ほどのアフタースクール支援事業は、貧困対策等で始めたものではありません。

様々な家庭、事情を抱えている子ども、保護者の方がいる中で、子どもたちが日々学校生活の中で過ごす時間の半分以上は、学校の授業になります。その学校の授業の質をしっかりと担保していくことが大切と考えています。教師の指導力を高めていくために、いろいろな研修会などを行っています。授業をしっかりと、ぐらつかないようにしていく。子どもたちを励まし、また、次につながっていくような方向に持っていくということが一番大事なことで捉えています。

白根地区公民館長

公民館主催の家庭教育事業について紹介

自治協委員

全国学力・学習状況調査のデータを見ると、南区には新潟市や全国と比べて低い学校がかなりあるのではないかと思います。一定レベル以下の学校には、努力目標を立てるなど、何らかの働きかけが必要ではないかと思います。特に、市の中心部から離れた学校は、生徒数も少なく、競争意識も低く、地域に学習塾なども少ない。学力の向上は、学校や家庭の取り組みがメインになってくと思う。

学校と地域のつながりは、逆に中心部より真剣に取り組んでいると思っている。学校からのお便りに目を通すと、先生方の努力が伝わってくる。日々の努力が大事だと思う。

自治協委員

各学校の地域教育コーディネーターの人数は何人か。ばらつきがあるようだが、人数は決まっているのか。

コーディネーターは一生懸命に活動しているのだが、学校からの便りには、その活動があまり紹介されていない気がする。学校からの発信が少ないのではないかと思う。

教育委員会事務局

地域教育コーディネーターの人数については、特に、何人にお願いしますということはありません。一人の学校もあれば、PTAや地域とのつながりで二人以上の学校もあります。

自治協委員

先ほどの学習支援について。中学校で行っているということだが、小学校で行っているという事例はあるか。

教育委員会事務局

放課後、「宿題片付け隊」のような形で複数のボランティアを募り、子どもたちの宿題を見たり、丸付けを手伝ったりと自主的な取り組みを行っていただいているところがあります。

自治協委員

勉強は、癖、習慣だと思っている。小さいうちにやっておく方が良いと思っている。

学習ボランティアなど人材バンク的なものは、公民館などで行ってもらい、人材を確保することは少ない予算でもできると思う。

また、学習ボランティアに対する学校の対応や考え方が、校長先生が変わると違って来るのはおかしいと思う。もっと上手に使っていただきたい。お年寄りにとってボランティア活動は生きがいになる。是非、小学校からそういう時間を設けてもらいたい。

自治協委員

知的障がいのある子どもの保護者からの話だが、市立の特別支援学校の時は、通学バスに乗ることができた。そこを卒業して、すぐ隣の高等特別支援学校に行ったら乗れなくなった。高等部は県の仕事で管轄が違うことは承知しているが、南区は交通の便が悪く、障がい児たちが通学するというのは厳しいところだ。バス代の出費も大きく、市・県の管轄の違いも理解しているが、一緒に乗せてもらうなど何とかしてほしい。

自治協委員

自治会で公園の草刈り作業が行われた。大勢来ていただいた中で、親子で参加された方が2組あった。みんなが、その中の中学生をほめたら「今度は、友達も連れてこようかな」と言ってくれた。

地域の大人から直接ほめられることで自分に自信をもち、さらに「今度は自分に何ができるかな」という話になってくると思う。地域の人たちも、活動に出てくれた子どもに対して無理やりでもいいからほめることが大事かなと思った。

7 自治協議会部会長挨拶

地域にとって子どもは宝。南区が子どもを育てるのに良い場所だというふうになれば良いと思う。子どもたちはなかなか勉強しない。そして、様々な問題を抱えている。それは親の責任であり、地域の責任でもある。この会では、年配者に関わってもらい子どもたちの学ぶ力を強くしよう、地域に貢献する力を強くしようという意見があった。個性のある学校づくりでボトムアップできるような学校になれば良いと思う。

本日は有難うございました。

8 閉会